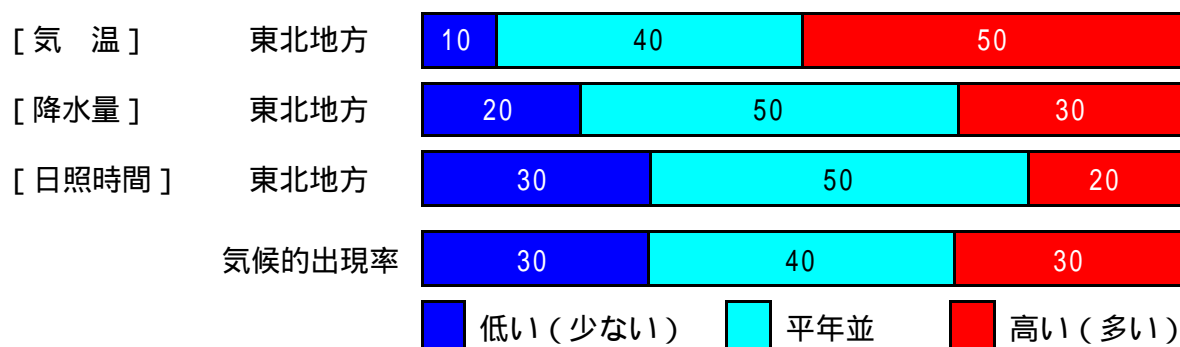


# 東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：8 月 28 日～9 月 27 日）

平成 11 年 8 月 27 日 仙台管区气象台

## 1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



[ 気 温 ]: 東北地方は「高い」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は「平年並」で 40％です。「低い」の確率は 10％と小さい。

[ 降 水 量 ]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は「多い」で 30％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。

[ 日照時間 ]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は「少ない」で 30％です。「多い」の確率は 20％と小さい。

## 2．予想される天候の特徴（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

### 向こう 1 か月

東北地方は、天気は周期的に変化するでしょう。

この期間の平均気温は高い見込みです。平年の晴れ日数は約 14 日です。

### 各予報期間の天候の特徴

1 週目…………… 向こう 1 週間は、天気は周期的に変化し、28 日と期間の中頃には雨の降るところがあるでしょう。

平均気温は高い見込みです。平年の晴れ日数は約 4 日です。

詳細は週間天気予報を参照して下さい。

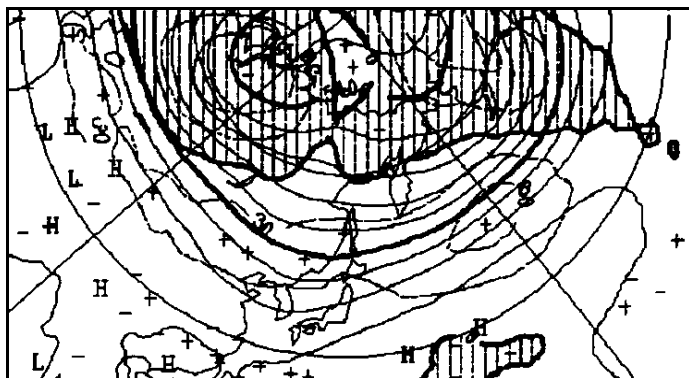
2 週目…………… 天気は周期的に変化するでしょう。

(9 月 4 日～9 月 10 日) 平均気温は高い見込みです。平年の晴れ日数は約 4 日です。

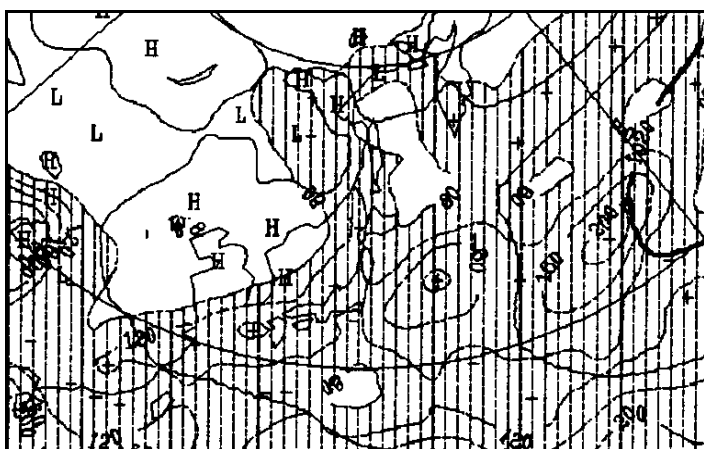
3～4 週目…………… 天気は周期的に変化するでしょう。前線や低気圧の影響で、天気のぐずつく時期もある見込みです。

平均気温は平年並の込みです。平年の晴れ日数は約 7 日です。

## 予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



月平均の 500hPa 高度・偏差  
(等高度: 60m 毎、偏差: 30m 毎、陰影部: 負偏差)



月平均の地上気圧と降水量  
(等圧線: 4hPa 毎、降水量: 40mm 毎、陰影部: 80mm 以上)

### ・ 500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近は広く正偏差に覆われ、ゾーナル<sup>注1</sup>な流れでやや西谷<sup>注2</sup>傾向。このため天気は周期的に変化し、気温は高めに経過しやすい。

2 週目（図略）は、日本付近は正偏差に覆われ、流れはゾーナル。3～4 週目（図略）も、正偏差に覆われるが、太平洋高気圧は後退し、西谷傾向を示す。

注 1) ゾーナル：偏西風の蛇行が小さい状態。

低気圧や高気圧が順調に東進し天気は周期変化しやすい。

注 2) 西谷：上空で日本の西側が気圧の谷となり、南から暖かく湿った空気が入りやすい。

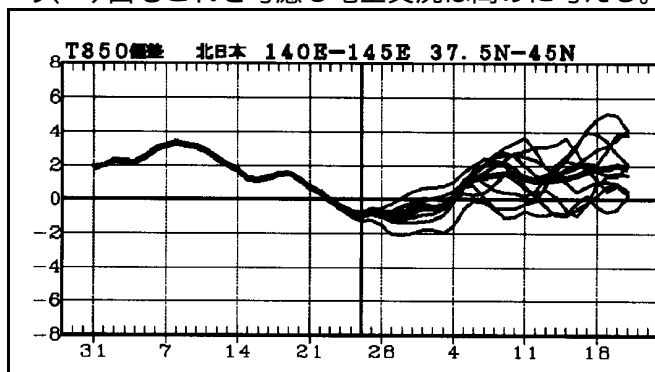
### ・ 地上気圧と降水量

月平均では、日本付近にひろく降水域があるが、まとまった降水量は見られない。

後半（3～4 週目：図略）には、日本の南岸に前線によるものと思われる降水域が予想されている。

## 3．北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーの平均でみるとこれまで高めで推移してきたものが、一旦下降し、1 週目後半から再び上昇して平年より高めになることが予想されている。ただし、後半のバラツキは大きい。また、最近では 850hPa 気温に比べて地上実況が高めに推移しており、今回もこれを考慮し地上実況は高めに考える。



北日本 850hPa 高度（上空約 1500m）での気温偏差の実況と予想

縦軸：気温偏差（ ） 横軸：日付

発表日以降の細線は各アンサンブルメンバーの予想値、太線は平均値。

注)・資料の内容を他の要素により修正して予報を組み立てることがあります。

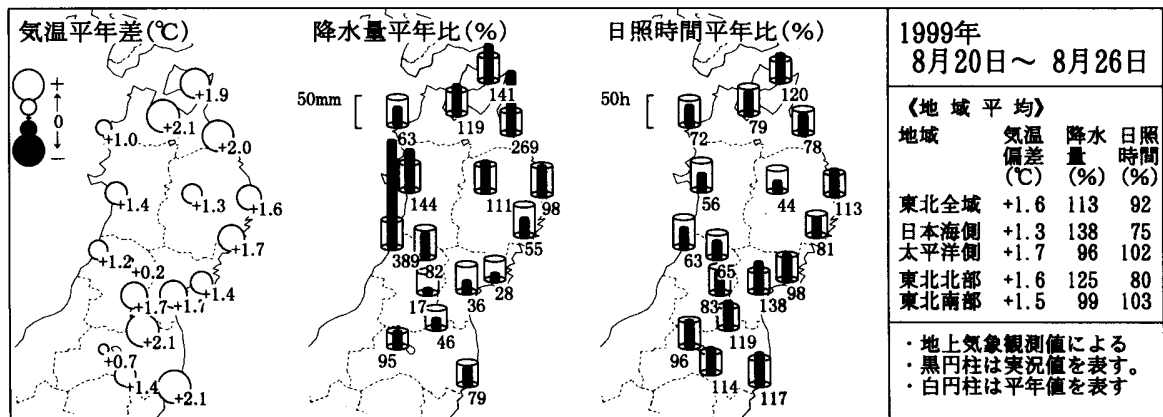
・ 850 hPa の気温は、地上の気温と必ずしも対応しないことがあります。

注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

#### 4. 最近 1 週間 (8 月 20 日 ~ 8 月 26 日) の天候の経過

期間の前半は、東北日本海側では気圧の谷の影響で天気のぐずつく所が多かった。東北太平洋側では曇りの所もあったがおおむね晴れた。期間の後半は、前線や低気圧の影響で、全般に曇りや雨の日が多く、特に 23 日 ~ 24 日には、大雨となる所もあった。

平均気温は東北全域で偏差が +1.6 と平年を上回った。降水量は東北日本海側が平年比 138% で、東北太平洋側は 96% だった。日照時間は東北日本海側が平年比 75% で、東北太平洋側は 102% だった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差 (比)